

平成30年12月11日(火)

あいち・なごや 介護ロボットフォーラム2018

「移乗支援(装着)機器の導入の経緯と活用の実際」

社会福祉法人 なごや福祉施設協会

特別養護老人ホーム なごやかハウス滝ノ水

ケア統括長 濱田 信

1. 移乗支援(装着)機器の導入の経緯

- ▶ 平成26年度 ロボット介護推進プロジェクトへの協力
なごや福祉施設協会特養各施設にて電動簡易移乗機
導入のモデル事業
感想「**禁忌が多すぎて使用したいご利用者に
使用できない**」
- ▶ 平成29年4月 ケア統括長会にてHAL®のデモを受ける。
感想「**介護現場で使用できそうなロボット?**」
- ▶ 平成29年7月 なごや福祉用具プラザからHAL®普及モデル
事業の依頼
- ▶ 平成29年9月 HAL®普及モデル事業開始。～平成30年2月

2. 導入の目的

①職員の腰痛予防

②自立支援介護推進の一環

(おむつゼロ、ノーリフティングケアなど)

③職員の身体的負担の軽減を図りつつ、先進的介護に取り組むことで、介護する側・される側双方から選ばれる施設を目指す。

3. モデル事業開始にあたって

- 夜勤帯(身体的負担の大きい一人業務)のHAL®の使用(オムツ交換、体位変換、移乗介助)を想定。
- 使用状況報告書に職員ごとにHAL®使用時間と使用時の感想の記録を残す。
- 当施設介護リーダー、なごや福祉用具プラザ職員、パーソナルケアサポート担当者との定期的なワークショップの開催。
- 日勤帯でのHAL®の使用時間の追加。(10月よりトイレ誘導、入浴介助等)

4. ワークショップでの意見（抜粋）

- ①電極パッチが汗で剥がれる。
- ②猫背姿勢のためか、HAL®に姿勢を矯正されている感覚があり、使い始めは腰痛を感じた。
- ③長時間(120分)の連続装着では、待機状態での動き辛さ、ベルトの締め付け感がある。機器自体の重量を感じる。
- ④個室トイレなど、狭い場所ではHAL®を壁等にぶつけてしまう。
- ⑤腰装着タイプのため、職員のズボンポケットが使えない。
- ⑥HAL®の作動ライトがご利用者の安眠の妨げにならないか心配。



5. ワークショップでの解決策(1)

①電極パッチが汗で剥がれる。

⇒アルコールで汗を拭いてから電極パッチを貼る。

⇒腰を曲げた前傾姿勢で電極パッチを貼る。

⇒電極パッチを止めて、センサベルトに変更。

②猫背姿勢のためか、HAL®に姿勢を矯正されている感覚があり、使い始めは腰痛を感じた。

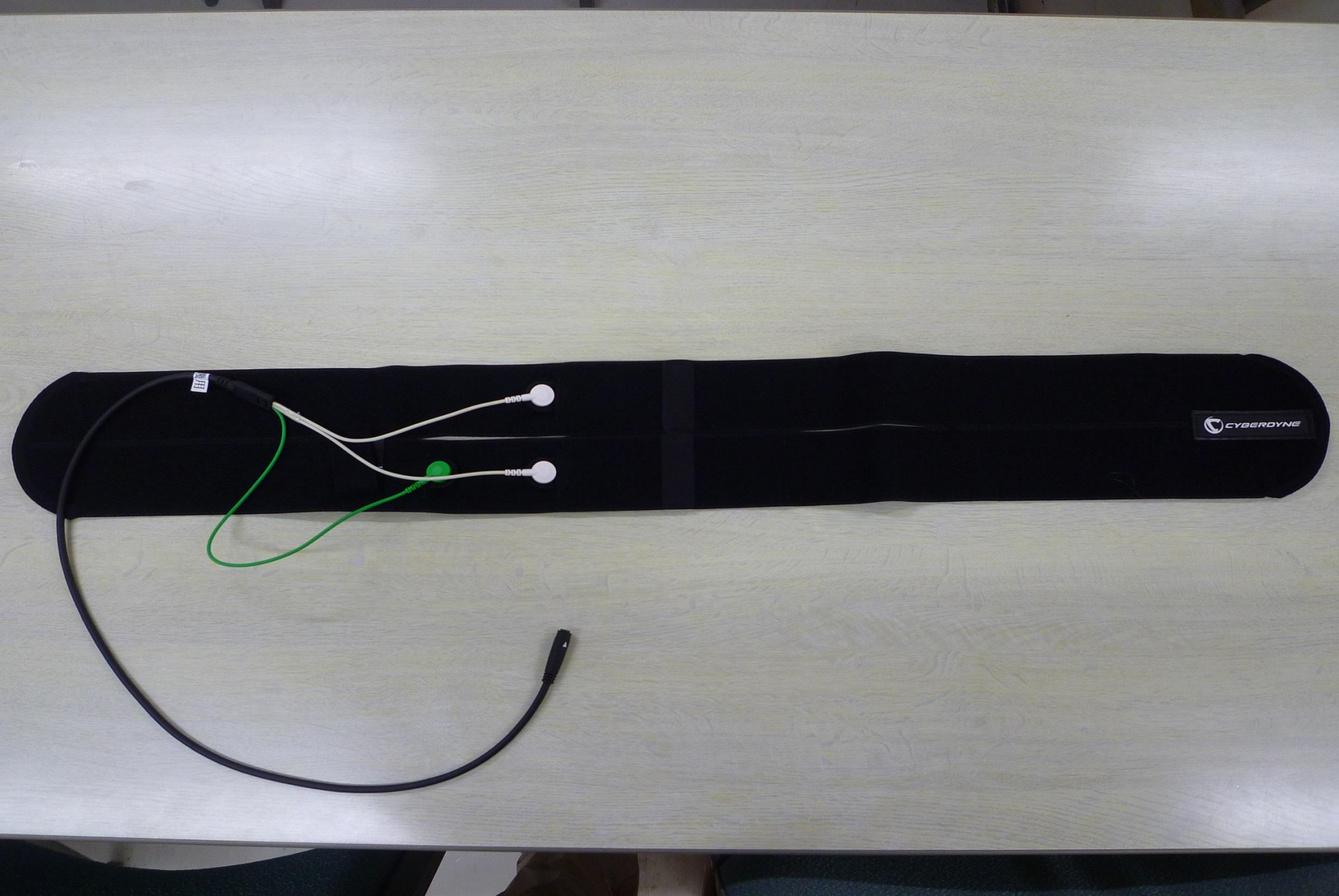
⇒5段階あるアシストレベルを下げる。

⇒使用回数、使用時間が増えるにしたがい、違和感は軽減。

③長時間(120分)の連続装着では、待機状態での動き辛さ、ベルトの締め付け感がある。機器自体の重量感

⇒メーカーが推奨する慣らし期間(30時間)に近づくにつれて慣れてくる。

⇒予防衣やエプロン同様の装着感覚で使用できるようになった。



5. ワークショップでの解決策(2)

④個室トイレなど、狭い場所ではHAL®を壁等にぶつけてしまう。

⇒HAL®をクッション材などで保護ができないか。

⑤職員のズボンポケットが使えない。

⇒アクセサリとしてポーチ等が使えないか。

⇒施設側でウエストポーチを用意することで対応。

⑥HAL®の作動ライトがご利用者の安眠の妨げにならないか心配。

⇒ライトの消灯ができないか。(現状対応不可とのこと)

6. 職員ごとの使用時間

- ▶ モデル事業期間中、安全使用者講習を2回開催して介護職員16名が使用できる状態に。(一部職員で体格が合わずに使用不可あり)

0時間～ 3時間未満	・ ・ ・	4名
3時間～10時間未満	・ ・ ・	5名
10時間～20時間未満	・ ・ ・	5名
20時間～30時間未満	・ ・ ・	1名
30時間以上	・ ・ ・	1名

7. 否定的な意見

- ▶ HAL®の装着に時間が掛かる。
- ▶ HAL®自体の重量で動きがにぶる。
- ▶ とてもしっくりきたとは言えなかった。
- ▶ HAL®と自分の動きが合うことはほとんどなく、効果の実感がありません。
- ▶ 個室トイレなど、狭い場所での使用中にHAL®をぶつけてしまう。
- ▶ 自分の身体が大きすぎてHAL®が装着できなかった。

⇒上から4番目までは「慣れ」の問題か？

8. 肯定的な意見

- ▶ 使用頻度に比例して、HAL®の使用に慣れてきた。慣れてくると、食事介助用エプロンや予防衣の着用と同じような感覚で装着できた。
- ▶ 夜勤明の腰の疲労感が明らかに軽減した。
- ▶ 使い続けることで、身体の使い方が修正され、HAL®を使用していない時も腰痛が軽減した。

⇒ボディメカニクスが身に付いた？

9. 本導入のための準備

- ▶ 安全使用講習後、3カ月後、6カ月後など定期的に使用感に対するアンケートを実施する。
- ▶ 使用状況報告書を使用して、HAL®の使用時間と効果について記録を残す。
- ▶ 使用場面を想定し、業務分担表にHAL®を使用する時間と業務内容を明記することでHAL®の使用を定例化する。
- ▶ 介護リーダーと管理者講習受講者(指導者)から使用の声かけ。
- ▶ HAL®のみに頼るのではなく、さまざまな移乗機器・ロボットの併用で更なる負担の軽減につなげる。

10. 今後、メーカーに期待すること

- ▶ 職員の体格に合わせて調整可能な機器の開発
- ▶ 見た目、ファッション性、カラーバリエーションやデザイン性
- ▶ センサベルトの使い勝手の改善やHAL®専用のポーチなどのアクセサリーの開発
- ▶ 重量感の解消
- ▶ 定期的なフォローアップ (ネット相談、導入ユーザー研修大会)